

第 2 回世田谷区外部評価委員会 会議録

【日 時】平成 28 年 3 月 28 日（月）午後 7 時 00 分～午後 9 時 00 分

【場 所】世田谷区役所第 1 庁舎 5 階 庁議室

【出席者】

■委 員 浅輪剛博、大森猛、齋藤啓子、柴田真希、高木史雄、沼尾波子、松田妙子、
森岡清志（以上 8 名）

■ 区 板谷政策経営部長、笹部政策企画課長、後藤庁内連携担当課長

【配布資料】 資料 1 外部評価委員会の目的・役割
資料 2 新たな評価軸 評価シート
資料 3 評価シート作成のためのチェックシート
資料 4 基本計画重点政策抜粋（若者）
資料 5 平成 28 年度スケジュール

午後 7 時開会

1. 資料の確認

－後藤庁内連携担当課長より、配布資料の説明を行った。－

2. 新たな評価軸の検討について

(1) 説明

－後藤庁内連携担当課長より、資料 1「新たな評価軸検討シート（案）」に基づき、行政評価シート（案）について説明を行った。－

(森岡委員長)

- ◆ 本日は主に、資料 2 の修正された評価シート例が適切か、わかりやすいかなどについて議論したいと思います。20 時 30 分過ぎまで自由にご議論をお願いいたします。

(浅輪委員)

- ◆ 基本的な質問ですが、資料 2 の 1 の (2)「(A) を構成する (B) の取組みの全体像を教えてください」の記入欄にある「施策評価「事業内容」欄より転記」について、事業内容欄とはどこのことでしょうか。

(後藤課長)

- ◆ 冊子の中の「若者の交流と活動の推進」部分に記載されている事業内容になります。事業概要を記載したものです。

(浅輪委員)

- ◆ 取組みの全体像がそれだとして、次の 2 の (1) の②「(B) を実施する段階」についても、どこかに書いてあるのでしょうか。

(後藤課長)

- ◆ ここはあえて指定しておりません。大きな事業を実施するにあたって行ったイベントや委員会などを左側に記入することになりますので、イベントがたくさんある場合などは行を追加していただくことになります。

(浅輪委員)

- ◆ 事業を実施した後に記載するこの評価シートの他に、実施前にも、施策の目的と全体像、施策の目的を達成するための個別事業と事業目的について記載したものが別途あるのでしょうか。

(後藤課長)

- ◆ はい。ございます。

(浅輪委員)

- ◆ それとのつながりが、この評価シートでは見えないように思います。

(後藤課長)

- ◆ そこを補完するものとして従前の評価システムの中に入っている情報を参照いただきながら記載いただくこととなります。すべてをここに盛り込むと、それだけでいっぱいになってしまうからです。

(柴田委員)

- ◆ プルダウンで選ぶとありますが、「参加・協働」は主体がどこかによって全然違うため、分けることを考えてほしいと思います。

(後藤課長)

- ◆ 2つは分けて選べるようにしたいと考えております。

(柴田委員)

- ◆ 資料1の裏面図の一番上に「総合的な行政評価（従前の行政評価+新たな評価軸での評価）」とあります。この委員会は新たな評価軸での評価を検討するためのものだと思っていたのですが、「従前の行政評価+」とはどういうことなのでしょう。

(後藤課長)

- ◆ 今回の委員会では、新たな評価軸での評価部分の構築と、それをどのようにうまくリンクさせていくかを検討いただいております。

(柴田委員)

- ◆ 従前の行政評価の資料を拝見していない気がします。

(後藤課長)

- ◆ 1回目の委員会でお渡しいたしました黄色いファイルの冊子をごらんください。現在の評価システムの中に入れておいたデータを事業ごとに打ち出したものです。これをベースに新たな評価軸のシートを作成してはどうかということでご検討いただいているということです。

(柴田委員)

- ◆ 従前のものと新たなものが別々にあるというのは、書き込む側の身になると倍になっ

て大変ではないでしょうか。

(後藤課長)

- ◆ 従前のものは1番のところに自動でデータを持ってくることを想定していますので、それを見ながら新たに2番以降を入力していただくことになると思います。

(森岡委員長)

- ◆ 資料2の1の(1)の記入欄に◎がついていますが、ここは基本計画40ページを切り取ってくるということでしょうか。ほかにもある場合には入れてよいのでしょうか。

(後藤課長)

- ◆ 自動でデータが入ってくることにしていますが、迷っています。基本計画に記載された以外の要素が生じた場合に、本当に解決しなければならない問題を記載したくなる人が多いと思われるので、もっとわかりやすく書ければそちらのほうが望ましいように思います。

(沼尾委員)

- ◆ 黄色いファイルの評価シートがベースにあって、そのほかに参加と協働を入れるというのは行政の人間にとってはうなずける部分があります。法令や条例で決まっています事業としてやらなければならないものがあり、それが着実に履行されたのかを行政の仕組みの中でチェックすることが基本としてあると思います。ただ、住民の声をくみ取ったり業者やNPOと連携したりすることで工夫できる余地があるならば、参加や協働をもっと考えるべきだという考えもあり、議会で決まったからとか毎年継続しているからといった理由でやるのではなく、そもそもの目的に立ち返って、住民の声を聴きながら可能性を拓げるための指標としてA3版を使おうという趣旨なのだと思います。その限りにおいては選択肢としてあり得ると思います。
- ◆ 声を聴いた住民とは、潜在的なニーズを持つ住民なのか、一緒にサービスをつくりたい住民なのか、どちらでもなく傍観しつつ、でも意見は言いたい住民なのか、重要だと思います。参加・協働という場合、利用者なのか、提供者なのかで変わってくると思います。両方に目配りする配慮があってもよいと思います。
- ◆ この黄色いシートは、行政主導で行政が決めたものやっっていくうえでの評価だと思います。公共空間は行政が提供して市民が手伝うものではなく、共に一員としてつくっていくという市民の側からの発想からすると、公共空間を皆でつくるにあたって若者との交流場面をつくらうとした場合に、どのような決め方や参加の仕方があったのかといった観点からの評価が入っていないという疑問が出てきます。柴田委員の疑問もそこなのではないでしょうか。行政の施策があつてそこに住民を入れるという発想での評価なのか、あるいは一緒に公共空間をつくっていくという視点で行政の機能や役割を見るという発想での評価なのかで、評価シートの位置づけが変わってくると思

います。国や都から言われたり、特別区の連携があったり、特に法律で決まっているものについては住民の参加・協働の余地がない事業もあると思いますので、仕分けをしたうえで、どういう位置づけにするのか確認しておく必要があります。

(後藤課長)

- ◆ そこがまさにこれまで悩んできたところです。利用する方のサービスと参加・協働について、このシートの中でどうとらえるかについては、プルダウンメニューの表現の仕方と、「効果のあった、助けになった、人・物・取組み等」という限定的表現になっている部分において、両方を含めて聞きたいと思っています。前回の反省点として、欄を多くするとわかりにくくなるということがありますので、工夫して表現を変えることでクリアしたいと思っています。
- ◆ 公共空間の話については後者の視点で考えています。従前のように行政側の視点に終始するのではなく、新たに踏み込んだかたちの評価ができるようなシステムづくりを当委員会で検討いただいているつもりです。そこを吸い取れるシートにしたいと思っています。
- ◆ 柴田委員のご意見については、スタートのデータを参照する部分を取り込み過ぎるとデータが多過ぎますので、別途資料を使っただき、A3の1番から2番に大きくステップを踏むためには2番のCが要するに重要だと考えて、このA3資料を作成しました。
- ◆ 先程お話があった、利用したい住民なのか参加したい住民なのかについて、資料3で質問を順序立てようと試みたつもりです。

(松田委員)

- ◆ プルダウンメニューはまだできていないのでしょうか。

(後藤課長)

- ◆ 今のところ「参加」「協働」「横断的連携」「改善」程度をイメージしていますが、これまでの話をうかがい、定義づけをしっかりとらえて視点を増やしていく必要があると考えています。

(浅輪委員)

- ◆ 「改善」の捉え方が私と違うように感じます。参加・協働・横断的連携と並列には語れないのではないのでしょうか。それぞれ実施した事業ごとに目的があり、実際にやったことがあり、効果などがあり、課題等が出てきてそれを改善するのだと考えます。資料3の構成を見ても、最後に単独で「改善に係る取組み」とし、8ページに④として課題を聞いた後は⑤として急に新たに取組みたいことを問うています。課題を解決するにあたって来年度新たに取組みたいことならわかるのですが。

(後藤課長)

- ◆ こういう方がアシストをしてくださったので事業がうまくいったとか、こういう事務改善の視点でやったことが功を奏して事業がうまくいったなど、過程の中で参加・協働・横断的連携以外の要素があったためにうまくいったことを想定し、それを取りあえず「改善」という表現にしています。参加・協働・横断的連携に入らないものはここに書いてくださいという構成です。
- ◆ 8ページ⑤の新たに取り組みたいこととは、前のページからの「横断的連携」に係る取組み」の中で今までやってきたこととは別の新たな横断的連携の取組みということです。

(浅輪委員)

- ◆ 課題に対してどう具体的に解決するかが重要だと思います。

(柴田委員)

- ◆ 参加・協働や横断的連携といった軸で過去の取組みを分析するのではなく、新たな視点や新たなテーマなどが見つかったことを評価するものという意味で、改善は軸が違うと思います。
- ◆ A3シートの使い方によって、重複しているためにいらぬ項目も出てくるように思います。同じものを何度もクリックさせる必要はないと思います。施策評価の次に2(B)がくれば、それより上の部分は省略できますし、下の定量的部分も、この評価のところにあるのならば、新たに書かせる必要はないと思います。従前の評価シートにつけるのであれば、重複で省略できることがあり、もっとシンプルになると思います。

(後藤課長)

- ◆ 従前のシートと重複する部分があるというのは、おっしゃるとおりです。運用時にはシートの省略化できるところは極力削りたいと思います。
- ◆ 2(B)以下は、現在のシステムの中の要素としては、Cの部分は全く入っていません。所管によっては効果があったとして記載していることもあろうかと思いますが、こういう投げ方の設問は従前の評価システムに入っていません。C部分が原因となって課題が効率よく改善できたということを数字で示させることもしていません。そのため、2番以降については全く新しい要素になりますので、1番だけが運用で工夫できる部分となります。
- ◆ 浅輪委員からご指摘があったプルダウンメニューのレベル感の違いについては、やると資料3と同様のものになってしまうと思います。むしろ、プルダウンで選択するにあたっての定義をしっかりと説明する、もしくは別に見える化したものを用意し参照しながら入力いただくといったことで対応し、シートはシンプルなつくりにはどうかと考えています。多少複雑になっても列を挿入するなどして入れたほうがよいので

しょうか。

(齋藤委員)

- ◆ 資料3のチェックシートと資料2の施策別評価シートの両方を作成するのでしょうか。

(後藤課長)

- ◆ 今の段階では、資料2が基本で、考え方を整理するためのツールとしてチェックシートを位置づけています。

(齋藤委員)

- ◆ 自分が知っている事業にあてはめて考えると、改善というよりも、発展のような気がします。
- ◆ A3縦になっていますが、3(C)部分も2(B)の横につなげて書きたいと思います。そうすれば、Bを実施する段階でいくつか項目があったとして、そのうちいくつかを一緒にやったことで効果があった場合、図示も含めてわかりやすく示せると思います。自由記入欄的にフレキシブルに利用して、やったことを振り返ったり課題を示したりできるのではないのでしょうか。
- ◆ 3の1(2)も、ここにあると書きにくいので横型にできればと思います。

(森岡委員長)

- ◆ 前の段階のものに比べれば、修正していただいたことで書きやすく読みやすくなったと思いますが、本日いただいたご意見も踏まえ、事業途中で得られた課題や必要性などの知見も書きこめるよう工夫していただければと思います。
- ◆ 新しく修正された評価シートに適した事業もあれば、書き方が困る事業もあるのではないのでしょうか。例えば、生きづらさを抱えた若者の支援や、支援を必要とする子どもと家庭のサポートなどの支援事業については、課題としては人手もカネも足りないからどうしようもない面があったり、専門家が少ないために協働や連携といってもカウンセラーや成年期思春期問題を扱う精神科医の紹介にとどまったりすることもあります。事業によっては、3種類くらいタイプがあってもよいと思います。大雑把な枠のものと、この程度の細かな枠のものと、その中間のものがあるとよいのではないのでしょうか。ヒアリングしてみれば分かると思います。

(齋藤委員)

- ◆ 記入しにくい事業もあると思いますが、うまくいっていない事業ほど協働や連携をやっていないということがあると思います。これまで上手くいってなかったのに、上手くいった事業などは、新しい発展があったということなので、このシートでそれを評価することができると思います。上手くいかなかった場合でも、それが課題ということで、他にもこういう手立てがあったと誰かが示唆できるように、このシートを使え

るのではないのでしょうか。

(松田委員)

- ◆ 結果として改善されたということではなく、庁内の気づきという意味の片仮名のカイゼンだと思います。委員長がおっしゃったテーマについても、今ならいろいろやることがあったと思えるのだから、見方が変われば、違う人はこうやっているなど提案があったりするので、あきらめなくてもよいと思います。
- ◆ プルダウンのメニューが固まってくると、これをやっておけばよいという話になりかねないかと心配しております。評価されることを目標にこれをするということになってはいけません。うまく使ってくれるか心配があります。

(後藤課長)

- ◆ 委員長のご指摘については、入口部分で要素自体が全くない場合は、ここで工夫をしなければならぬ話と、重複している部分がある話と、それ単独の場合とがあると思います。現状のシステムとどうリンクさせていくのかというところで解決していかなければならない大きな課題だと思います。
- ◆ やれることがまだまだたくさんあるのではというご指摘については、参加・協働・横断的連携以外の要素が多い事業の場合に、これをどう使うか、あるいは、使っても馴染まない場合はどうするのかということだと思います。サービス側の改善の話なのか、参加する側の話なのかというところをどう落とし込むかが解決できれば、すべて解決できる気がしています。その場合、プルダウンの要素を2つに分けたほうがよいのか、ここはシンプルにしておいて趣旨を伝えるための別シートを資料として用意したほうがよいのか、全く別のもので列を分けたほうがよいのか、検討していく必要があると思います。

(森岡委員長)

- ◆ シートそのものはシンプルのほうがよいと思います。どういうものを書いてほしいのかを説明する文章が必要かもしれません。書きづらい場合には個別に相談する手もあります。

(後藤課長)

- ◆ 改善についてのご指摘のように、このシートに対する違和感を解決するとこんな感じというイメージがある方は、簡単な図で示していただけるとありがたいと思います。シンプルがよいと思っております。

(浅輪委員)

- ◆ どの事業にしても目的がまずあり、次にその目的を達成するために効果的な内容を考えます。その内容を具体的にヒト・モノ・カネで考え、個別の目標を設定します。そ

れがP（プラン）です。実際に内容をD（実施）した結果があり、目的や目標を数値含めどの程度達成したかの評価があり、達成できなかった場合には課題があり、それに対して改善案が出ます。それ以外にも、Dをやって新たな思わぬ効果があった場合には、それを評価して拓げるために新しく取組みを行っていきます。改善と新しい取組みが次年度のPにつながっていきます。このPDCAのサイクル図を埋めてもらえば、それが評価シートになるのではないのでしょうか。

（松田委員）

- ◆ 改善の意味が違って、齋藤委員は発展とおっしゃっていました。課題の後に出てくるのではなく、やっている中で意図して仕掛ける的にやったことをプルダウンの中に入れたのだと思います。改善という言葉でないほうがよいように思います。

（後藤課長）

- ◆ 書いていただいた要素は既にかなり入っているように思います。効果の部分をもっと見える化したいと思います。

（浅輪委員）

- ◆ 要素としては入っています、全体の流れの中で要素の置き方が違っていると思います。

（森岡委員長）

- ◆ 目的・手段が明確な事業ならばPDCAに乗るのですが、明確でない事業も行政はたくさん抱えています。価値観に関する事業などがそうなのですが、その例として生きづらさを抱えた若者の支援をあげました。この事業は目的・手段をあまり明確にできません。生きづらさという主観的なものに対して、何を効果として何を目標とするかが難しいのです。支援を必要とする子どもと家庭のサポートにも似たところがあります。

（後藤課長）

- ◆ おっしゃっていただいたとおり、そこが弱いために良い評価につながらない部分があります。原点に立ち返ってやってみたときに、新たな評価軸というこのメニューが非常に大事な要素だと認識しています。新たな評価を考えるにあたって、どこまで「見える化」（見えるようにするか）にかかっていると感じています。

（齋藤委員）

- ◆ 最終的な見える化であれば、文字だけではなく写真などがあってもよいと思います。ユニバーサルデザイン環境整備審議会において、各部会で関係所管の方が報告をして委員がジャッジしているのですが、パワーポイントを使って報告してもらい非常にわかりやすかったです。全部のことを網羅できなくても、一番効果があったところ、目

玉にしたいところをそういう風に見える化できるのではないのでしょうか。

- ◆ やったことは見える化できても、できなかったことは見える化できないため、それは文字で書くことになり、メリハリがつけられるのではないのでしょうか。

(後藤課長)

- ◆ 資料1の裏面の運用の仕方を考えるにあたり、そのあたりがポイントになる気がします。ここでは「虎の巻」と表現していますが、それをつくるにあたってのシートのかたちとして、何を投げかければよいのか、何が足りないのかを整理できれば見えてくるように思います。

(柴田委員)

- ◆ 資料2の2(C)においては、「効果のあった、助けになった、人・物・取組み等」で誰と何をしたかさえ示せば十分なところを、あえてプルダウンでカテゴライズしていることで、参加と協働のまち世田谷の実現にこだわっていることがメッセージとして伝わると思います。プルダウンを増やさなくてもよいのではないかと思います。増やすとしても1つぐらいでよいと思います。できない場合は、なぜできないのか考えるためにも持ち帰っていただければよいと思います。かたちになりにくいからこそ、一度このかたちで考えてみようという前向きなメッセージとして、この評価軸を使っていただくことが重要だと思います。

(森岡委員長)

- ◆ どういう局面を切るのかによるのですが、例えば発達障害の場合は、当事者と学校や大学で困っている先生と専門機関をつなぐ仕事ができる人を連れてきたり、相談センターをつくったりすれば評価シートに載せやすいのです。ただ、生きづらいと考えているアスペルガー症候群の本人が救われたかという側面については評価できません。周りの人が障がいに対して理解を示すとかいうレベルの話になると、行政の話ではなくなってくるように思います。

(松田委員)

- ◆ 機運を高めるのも行政の役割ではないですか。

(森岡委員長)

- ◆ 専門的な知識をある程度持っていないと機運だけではどうしようもありません。

(松田委員)

- ◆ 地域の人たちへの理解ということもあると思います。そういう人だと分かっているということが理解することではありませんか。

(森岡委員長)

- ◆ 分かれば、教師としては対応のしようもあります。来週までにこういう準備をしておいてという指示ではだめで、この本の何ページから何ページを読みなさいと言わないと通じないのです。単なる機運ではなく、具体的に知識として理解したうえでうまく対応しなければならないのです。もっとも軽いアスペルガー症候群なら大学教師にもたくさんいそうですし、何も特殊なことではないのです。

(柴田委員)

- ◆ 認知症でも周りの理解を進めるための勉強会をやっているNPOもあります。当人は何ら変わらないとしても、その事業をやったことで少しずつ住みやすい地域をつくっていくということです。そういうことも評価したいのです。

(松田委員)

- ◆ 青年が自立するとか、住まいを借りるといった生活の場面で地域の役割があり、理解がないと困難が生じることもあります。ここで、この事業はやらなくてよいと決める話ではないと思います。

(柴田委員)

- ◆ 分野別施策や重点施策に基づいていると思うのですが、拝見していると区民に関係していないように感じます。いかにステークホルダーとしての区民に近寄って事業をおこなったかが非常に重要だと思います。アスペルガー症候群の方の理解まで最終的に解決することは難しいと思いますが、毎年目標をつくって一歩ずつ進めていく際には、どんな方にどのようにアプローチしたのかは重要だと思います。

(森岡委員長)

- ◆ アスペルガー症候群の方も基本的には生きづらいと感じているのです。その点で専門のカウンセラーにかかわってもらえないのですが、行政の立場で評価シートにそれを載せることは難しいものなのです。

(後藤課長)

- ◆ 2 (C) を考えなければ、1 (A) においてレベルをどこに設定するかを考えられないということが発生するのではないかと思います。体系的に決まった最前線の事業を展開して大きい目標を解決しようとする中で、なぜそれを行っているのかリンクがぼやけることが発生しやすいと思うのです。1 (A) をどう考えるかには非常に大事な意味があり、その問いかけを改めてするシートとしては今のシートには欠けている点があるように思います。あえて欄を変えないでおくのは、主張を伝える意味でもよいと感じました。そういったことを感じ取ってもらえるような1 (A) がつくれるとよいのですが、考え始めると深みにはまりそうな気がします。

(松田委員)

- ◆ 繰り返していけば、書くコツが見えてくると思います。

(森岡委員長)

- ◆ 最後の3の効果について、齊藤委員もおっしゃっていましたが、効果、課題、改善、新しい取組等をまとめて文章化して、最後に書けるようなかたちでもよいし、少し工夫していただければと思います。

(沼尾委員)

- ◆ 事業は、行政が単独でやっているものは内部の評価がきちり出ます。住民と協働でやったものは、住民と行政の気持ちが違い、評価するのが難しいです。直でやっていないためよく見えず、評価が相対的に下がってきてしまいます。そこが協働・参加をすることの難しさだと思います。行政としては、連携としてやったとしても、本当にこれでよかったのかという安心感が持てないところに難しさを感じました。
- ◆ 3の効果を数値で表現するということについてですが、協働で行い、直接的に行政がやっていないことについて数値で評価できるのか不安があります。特定の目的があつて、その内容を具体的に事業化して、人、物、お金をつけて予算化していくわけですが、目的を達成するためにどのような事業のつくりにして、お金をつけるのかという、つくり込むところでの住民の声を聞く参加と、決めた事業を実際にやってみてその段階で現場の人に参加してもらうのでは、フェイズが違うと思います。また、評価の仕方も事業を作り込むのとそれをやってみるのは、段階として違うと思います。それは実際にシートを分ける必要はないと思いますが、職員の方が実際に書き込むにあたっては、どの段階での参加・協働を言っているのかが大切で、目線と言いますか、利用者・ユーザー側とサービスを提供する側、それぞれが一緒にやっていくというまなざしを持ってほしいという気持ちをしっかり伝えておけば、(B)と(C)は分けなくてもよいのではないかと思います。

(後藤課長)

- ◆ もっとシンプルにできるのではないかと思います。

(森岡委員長)

- ◆ これはこれで非常によく考えられていると思いますが、もっとシンプルにできるのであれば、その方がよいと思います。

(松田委員)

- ◆ 左とまん中がイコールであればよいのですが。イコールでないことも存在していますよね。並んでいるとイコールでなくても書いてしまう。ここでやってみただけ効果が

出なかったなど。

(後藤課長)

- ◆ 左は実証のみを入れ、その効果を（C）に入れ、それを一言で象徴するものとしてはという言葉が入ってきて、その他にあれば備考欄に入れてほしいということを3（C）の意味も含めて言ってしまうと、先ほど沼尾先生がおっしゃっていた時系列のところは、計画する段階と実施する段階と時系列で表現できない部分ということで、今は1、2、3で分けられていますので。また、利用者側のこと、参加・協働していただく場合の要素をどう拾い上げるかということで、無理に細分化しようと思うと資料3のような形になってしまいます。これには完璧に全部の要素が入っていると思います。ただ、関わってきた者が見てもとても難しいです。運用にはなじみませんが、考え方としては必要だと思います。これを踏まえながら、ここには実際にはざっくりと投げかけをして、主旨がしっかり伝わるシートになっていれば、それでよいように思えます。

(松田委員)

- ◆ 齊藤委員がおっしゃっていた記録を使うというのが、この左側だと思いました。それでも見えないものというお話があって、プロセス移動の部分で仕込みや関わってきた人たちが（C）に出てくるのかと思っていました。（C）が大事というのは、実施した時には見えない人や取組がそこで見えるからなのだと思います。たとえば、いろんな人たちが関わったのに雨で中止になったという場合に、（B）は書けないが（C）は書くことができ、中止にはなったが実際には関係者が協働することによって深まった関係性などがプロセスで見えるという要素があると思いました。

(森岡委員長)

- ◆ きちんと把握できない、捕まえられないということで、評価が低くなってしまうことがいろいろ考えられます。できるだけそういったことをすくうようにしてもらいたいのですが、これは説明しないと分からないと思います。

(後藤課長)

- ◆ 説明用のシートをどれだけ上手く作れるのかというのがあると思います。

(森岡委員長)

- ◆ 当事者が非常に助かっているケースもあります。

(浅輪委員)

- ◆ 出来なかったというのは評価したいところです。出来なかったなら、出来るようにどのように改善したかというのを聞きくことが大事です。改善案を評価できることが重要だと思います。

(柴田委員)

- ◆ 協働事業の評価が低いというお話がありました。世田谷区提案型協働事業で中間支援として7年ほど関わっていますが、協働とは、主体同士が、お互いの特性と役割の違いを理解し、共通の目的のもとに公共的課題に取り組む連合体としてパートナーシップを組むことで、より相乗効果をあげながら区民への公共サービスを提供できるという取り組みなのですが、区の方に、団体にやってもらうというスタンスが抜けないように感じます。行政からテーマを提案し、応募してきた団体と一緒にやるという、行政提案型事業もありますが、それも団体の方が主体になりがちです。意識としてそうなってしまっているようです。かなり意見を出して事業を作り上げているところもありますが、協働ということに対する認識が薄いと思います。協定書を結んだときに区の事業として認識を深めていただきたい。区の事業としてはきちんとやっていらっしゃるのですが、なかなか難しいところです。

(高木委員)

- ◆ 評価がしやすい事業もあれば、書きにくい事業もあります。そういうところに配慮して項目を考えるのではなく、簡単にして同じ土俵で色んな人が書き込めるようなものにしていくのがよいのではないのでしょうか。事業を仕分けるといいますが、実際に皆でやっていく中で見えてくるのではないかと思いました。今日の議論を踏まえてもっと簡単にできるのであれば、それに賛成です。

(大森委員)

- ◆ 高木委員と同様の意見ですが、最終的には区の実践ということだと思います。それが資料2の(B)だとすれば、シンプルで分かりやすくするというのがよいと思います。資料2はよくまとまっていると思いますが、もっと単純のものがよいのではないかと考えています。虎の巻の言葉がよいのか、それを行政の方たちがどうかするか、いわゆる行政経営ですから、それに対してどう評価すればよいのかと思います。

(森岡委員長)

- ◆ 最後に高木委員と大森委員から会議のまとめになるようなご発言をいただきました。それを踏まえて、ずいぶんのご努力いただきましたが、さらにシンプルな方向に修正していただければありがたいと思います。

3. 来年度のスケジュールについて

- ◆ 5月の下旬に、本日のご意見を踏まえ、シートの作成を進めてまいります。6月下旬にこちらの検討と併せて、区民参加の取組み(ワークショップ)の開催について検討していきます。その後、2回の小委員会をはさみ、軸の検討、ワークショップの結果をいかして、今後の手法を検討していきます。平成29年の1月下旬から2月上旬に提言をおまとめいただき、平成29年3月に最終の提言と考えております。

4. 次回のスケジュール

- ◆ 次回の日程についてですが、5月26日（木）19:00～を仮決定とします。その上で、24日・25日・26日についてメールで改めて日程調整を行います。今回は、このシートを引き続き検討していただき、区民討議会までに完成したいと考えております。無作為抽出で区民の方々に、参加・協働をテーマとした時に、どのようなお考えであるか議論できればと考えており、そのあたりのことを6月にご相談させていただきます。

午後9時閉会